

平成 30 年度第 1 回博物館懇談会

日時：平成 30 年 11 月 21 日（水）17 時～18 時 30 分

場所：野田市郷土博物館 1 階展示室、野田市市民会館 雪月桃の間

出席者：懇談会委員・小川恵美、沼野秀樹、横川しげ子、米川幸克。郷土博物館館長・関根一男、同学芸員・柏女弘道、寺内健太郎、大貫洋介（書記）。

1. 特別展「野田と大杉様～地域に息づく信仰～」について

○展示見学・説明

柏女学芸員より展示解説を行った（議事録省略）。その後、市民会館雪月桃の間に会場を移し、補足説明と意見交換を行った。

○補足説明及び意見交換

柏女 来館者数については、11 月 19 日までの開館 39 日間で 5,232 人、1 日平均 134.2 人と、例年の特別展並みである。昨年の鉄道展よりは少ない。次に関連事業については、ギャラリートークを 4 回、スライドレクチャーを 2 回実施する。すでにギャラリートークは 2 回実施しており、一回目は 10 人、二回目は 17 人が参加した。スライドレクチャーについては 1 回実施し、参加者は 8 人と、それほど多くはない。スライドレクチャーという言葉がまだ浸透していない感がある。特別展関連講演は、野田市の市史編さん委員会の調査研究員として民俗調査を担当してきた鎌ヶ谷市郷土資料館館長の立野晃氏に依頼した。申込みはすでに定員の 40 人を超えている。アンケートは 95 枚を回収している。約 7 割が男性である。市内外からの来館については半々といったところか。評価は、「大変良い」が 54、「良い」が 35、「良くない」が 2、「悪い」が 1 であった。良かった意見としては、大杉様が何なのかがわかった、という意見が多い。解説が詳しく、字が大きくてよい、珍しいものが見られたという意見も目立つ。良くなかった意見としては、市内すべてが網羅されていない、というものであった。関宿や南部等、調査しきれなかった場所も多く、調査にムラが出てしまった。「自分の地域が無い。」といった意見が出ることは想定されたが、限られた時間で難しい部分でもある。来館者の年齢層としては高齢者が多く、氏子の方々や出品者の方もよく来館している。自分の地域のものが博物館で展示されるということは、やはり特別なことらしい。

関根 信仰の対象であるため、取り扱いには気をつけた。

柏女 現役の祭礼の道具なので、地域の合意を得てお貸しいただいた。

委員 ギャラリートークについては、時間が 30 分だと物足りないのではないかと。折角来るのだから、もう少しじっくり話を聞きたい方もいるはず。関宿城博物館の大杉信仰の講座では 90 分も話をして頂いた。あと、「ギャラリートーク」という名称についても、まだピンとこない人も多いのでは。

委員 なぜ野田に大杉信仰がここまで盛んなのか？病気、水運以外にも広まった理由があ

るのでは。我孫子にも大杉信仰は存在するが、ここまでではない。

柏女 はっきりした理由はよくわかっていない。

関根 野田は昔から疫病の被害が多い土地ではある。

委員 貨幣経済の発達も一因にあるのかもしれない。

大貫 野田市域の信仰形態は極めて特殊で、その実態の解明はまだ難しい。例えば、野田には大量の庚申塔がある一方で道祖神はほとんどいない。絵馬、石造物、大杉など、個別の信仰を明らかにすることで全体が見えてくるかもしれない。

委員 展示されている古文書の重要な部分を読み下しにして示してもらえるとよい。貴重な資料にも関わらず、どうしても写真に目がいきがちになる。スライドレクチャーについては、せっかくなので近くに実物があるなら、そちらを見た方がよいのでは。

柏女 スライドレクチャーについては、展示を見学した、または、することを前提として、プラスアルファ的な解説も行っている。

委員 野田市立中央小学校の教育史料館を整備しているので、大変参考になった。特に様々な天狗に見応えがあり、数も充実していた。来館者の年齢層については、今回と今までで違いはあるのか？

柏女 アンケートからは、若干ではあるが10代が増えている。ただし、10代が多いのは、大学生の団体見学があり、そこで多くのアンケートが書かれたことが要因と考えられるので、それを除くとやはり60～70代の方が中心か。

委員 教育史料館の見学者も60代から70代の方が多い。将来的なことを考えると、バリアフリーやトイレを充実させたい。特別支援学級の子ども達ができる配慮も必要である。車椅子の方もいらっしゃるのか。

柏女 博物館も入り口に階段がある。1階は車椅子でも通行できるようにしているが、2階は難しい。

関根 建物の制約上、スロープの設置が難しい。

柏女 スロープへの要望はどの展示においても寄せられる。職員で車椅子を持ち上げたり、車椅子の研修を受ける等、人的支援が中心である。

委員 スライドレクチャーはそういう点では有効ではないか。

柏女 ただし、車椅子で市民会館まで上がるのが難しい場合もある。

委員 今回の広報体制について教えていただきたい。

柏女 チラシは13,000枚印刷している。市報に合わせた自治会の班回覧の他、公民館、図書館、近隣の博物館にポスター、チラシを配布している。図録は近隣のみならず、全国的に発送している。他に、近隣商店やまめバスにポスター掲載を依頼したり、市報、タウン誌、ジャーナルに情報を掲載している。新聞については、先日産経新聞から取材があった。

委員 我が家では大杉神社から毎年お札をいただいているが、その歴史に関しては知らない部分も多かった。

関根 近年は船神輿も担ぐ人が減っているという。

委員 他地域から担ぎ手を呼んでいるらしい。

関根 博物館にも毎年神輿が休憩に立ち寄る。

委員 図録も参考になった。

関根 400 円。価格としては安価だと思う。

柏女 図録は 1,100 部発行した。販売分については 300~400 部。昨年の鉄道展では図録が完売してしまったが、今回は今のペースでいけば会期中は大丈夫そうである。

委員 是非みなさんに見てもらいたい。出張で講演会などを依頼することは可能なのか。

柏女 職員体制等にもよる。勾玉講座等は以前は学校に出向いて行うこともあったが、余りに要望が多く職員体制が間に合わないことから、現在は来館していただく形にしている。

委員 今回の展示では、準備期間はどのくらいかかったのか。

柏女 基本的には約 1 年であるが、夏祭りの撮影など、機会が限られるため 2 年前から行っている部分もある。何度も調査で足を運ぶことで地域の方々とコミュニケーションをとることができ、資料の借用等がスムーズに進んだ所もある。長いスパンで調査ができれば理想的ではあるが、期限がある以上、どこかで区切りをつけなければいけない。

寺内 来館者から、神輿パレードで船神輿を見たいという声も聞こえる。

委員 やはり担ぎ手の確保の問題がある。最近では、昼間は軽トラの荷台に神輿を載せて回る地域もある。

2. その他

関根 次回の展示は「野田に生きた人々 その生活文化展 2019」。次回の博物館懇談会は 2 月 27 日に実施する。